

## VI 土壤診断の取り組み

土壌診断は、いちご・トマトなどの施設栽培を中心に施肥前の土壌を採取、主に肥料成分の含有量を調査し、施肥量を定める際の参考としています。

毎年7,000点程実施し、その結果を元に個別の説明会も各JAで実施されていますが、診断に取り組む際の詳細は、次の各実施要領(毎年制定)に基づいています。

## 1. 土壌診断実施要領 JA全農とちぎ 生産資材部肥料農薬課

### 1 目的

広く土壌診断を実施し診断データに基づく営農指導を行い、**合理的施肥**による生産資材費用低減と良質農産物の安定生産をめざす。さらに土壌診断をとおして土づくり運動の推進と環境保全型農業の確立を図る。

### 2 対象土壌 農産物生産のための土壌

### 3 土壌診断の申し込み手続き

- 1) JAは農家組合員の土壌診断依頼に対し指定の土壌診断申込書(様式-10)により全農とちぎに対して申し込みを行う。
- 2) JAは試料を風乾の上指定のポリ袋に入れかつ指定の荷札を付け、(株)JAグリーンとちぎ内土壌診断センターへ搬入する。
- 3) JAは農家組合員に対し、正しいサンプリング(別紙-1)に基づき試料採取の指導を行う。

### 4 診断期間

JA全農とちぎは風乾した試料受付後原則として15日以内(ただし診断申し込みが集中した場合は15日を超える場合もある)に土壌診断を行い、診断結果および施肥設計書を診断後5日以内にJAに報告する。

### 5 診断結果に対する対策

JAは土壌診断結果と施肥設計書に基づき、農家組合員に対し診断結果報告と施肥指導を行う。

JA全農とちぎはJAと協議の上、JAが農家組合員に対し行う診断結果報告と施肥設計書に基づく施肥指導の支援を行う。

### 6 診断料 略

### 7 診断料請求 略

様式—10

土壤診断申込書

JA全農とちぎ御中

JA名 \_\_\_\_\_ 所属課 \_\_\_\_\_

担当者名 \_\_\_\_\_ 連絡先 \_\_\_\_\_

貴会の「土壤診断実施要領」に基づき、下記のとおり土壤診断を申し込みます。

対象作物: \_\_\_\_\_

診断点数: \_\_\_\_\_

診断コース:[簡易][水稻][麦][園芸][微量元素総合]

番号	氏名	圃場名	備考	番号	氏名	圃場名	備考

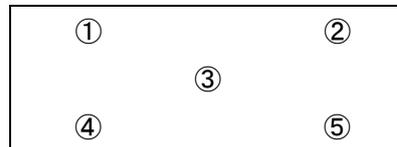
※希望診断コースに○を付けてください。

別紙—1

土壤診断にあたっての正しいサンプリング

1 土をとる

- 1)一枚の圃場5ヶ所から直径10cm 深さ15cmの円筒状に採取
- 2)バケツ等によく混ぜる



2 土を乾かす

- 1)土を広げ、大きな固まりをつぶし、小石を取り除き、水分がなくなるまで乾燥する。

3 土をポリ袋に入れる

- 1)採取乾燥した土500gを指定のポリ袋に入れる。

4 荷札を付ける

- 1)荷札に所定の項目を記入する。

5 土壤診断室へ持ち込む

- 1)土壤診断利用申込書を添えて(株)JAグリーンとちぎ内土壤診断センターに持ち込む。

注:ポリ袋・荷札は土壤診断センターで用意してある。

別紙—2

土壌分析実施項目

項目 \ 分析コース名	簡易	水稻	麦	園芸	微量元素総合
pH(H <sub>2</sub> O)	◎	◎	◎	◎	◎
電気伝導度(EC)	◎			◎	◎
硝酸態窒素(NO <sub>3</sub> -N)	◎			◎	◎
可給態りん酸(P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )		◎	◎	◎	◎
交換性石灰(CaO)		◎		◎	◎
交換性苦土(MgO)		◎		◎	◎
交換性加里(K <sub>2</sub> O)		◎		◎	◎
りん酸吸収係数		◎		◎	◎
塩基置換容量(CEC)		◎		◎	◎
可給態けい酸(SiO <sub>2</sub> )		◎			
遊離酸化鉄(Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )		◎			
マンガン(Mn) ほう素(B)					◎
亜鉛(Zn) 銅(Cu)					◎

## 2 良品質米生産対策土壌診断特別要領

- 1 目的: 土壌診断による適正施肥を推進し、良質米生産に寄与することを目的とする。(抜粋)
- 2 対象品目・対象JA及び対象者
  - (1) 対象品目: 水稻
  - (2) 対象JA: 県内10JA
  - (3) 対象者: TACシステムに登録され、TACが継続訪問し、訪問記録等をシステムに登録している担い手・集落営農組織を対象とする。
- 3 対象期間: 9月から翌年3月
 

但し、サンプル受付期間は翌年2月までとし、3月末までには農家への診断結果報告を完了する。
- 4 土壌分析項目: pH(H<sub>2</sub>O)、可給態りん酸、交換性(石灰・苦土・加里)、りん酸吸収係数、塩基置換容量、可給態けい酸、遊離酸化鉄
 

～以下略～

### 3 養液栽培に係る「原水・ベツ内養液・排液分析」実施要領

- 1 目的 養液栽培用肥料を供給するにあたり、養液栽培農家が適正な肥培管理を行うために必要な「原水・ベツ内養液・排液分析」体制を構築し、生産農家の安全生産に寄与することを目的とする。
- 2 分析申し込み手続き 略
- 3 分析期間 略

別紙-4

分析実施項目

分析項目	分析コース		
	原水分析	ベツ内養液分析	排液分析
pH	◎	◎	◎
電気伝導度(EC)	◎	◎	◎
アンモニア態窒素(NH <sub>4</sub> -N)	◎	◎	◎
硝酸態窒素(NO <sub>3</sub> -N)	◎	◎	◎
リン(P)	◎	◎	◎
塩素(Cl)	◎	◎	◎
カリ(K)	◎	◎	◎
カルシウム(Ca)	◎	◎	◎
マグネシウム(Mg)	◎	◎	◎
ナトリウム(Na)	◎	◎	◎
鉄(Fe)	◎	◎	◎
マンガン(Mn)	◎	◎	◎
亜鉛(Zn)	◎	◎	◎
銅(Cu)	◎	◎	◎

#### 4 堆肥分析実施要領

1 目的 県内では家畜糞堆肥が広く使用されているが、家畜糞堆肥は畜種、飼料により大幅に含有成分が異なる。家畜糞堆肥の成分を把握することで施肥設計に役立て、より合理的な施肥指導の実施を目指す。

2 対象 農産物生産のための堆肥(家畜糞に限る)

～略～

分析コース:[牛糞][豚糞][鶏糞][堆肥総合]

堆肥分析実施項目

項目	コース名	牛糞	鶏糞	豚糞	堆肥総合
水分		◎	◎	◎	◎
pH		◎	◎	◎	◎
EC		◎	◎	◎	◎
窒素全量		◎	◎	◎	◎
りん酸全量		◎	◎	◎	◎
加里全量		◎	◎	◎	◎
炭素全量		◎	◎	◎	◎
炭素窒素比		◎	◎	◎	◎
亜鉛全量			◎	◎	◎
銅全量				◎	◎
石灰全量					◎
苦土全量					◎
マンガン全量					◎
鉄全量					◎

## 5 可給態窒素土壌診断コースの追加について

### 1 目的

近年の肥料情勢を受け、国内肥料資源の活用、特に堆肥の利用において指導が進んでいる。しかし本県においては、地力の可視化や適正な施肥指導の面で十分なデータが蓄積していないことが課題として挙げられる。そこで、(株)JAグリーンとちぎにて可給態窒素診断機器を導入し、生産者圃場の地力窒素を数値化することで、減肥や適正施肥、また堆肥利用の推進に寄与していく。

### 2 対象土壌 農産物生産のための土壌(通常の診断と同様)

### 3 土壌診断の申し込み手続き

通常の土壌診断申し込み手続きと同様。但し、他のコースと併せて申し込みを行う場合は、可給態窒素診断用の土を分けて提出する。

### 4 診断期間

JA全農とちぎは、風乾した試料受付後原則として30日以内(但し診断申し込みが集中した場合は30日を超える場合もある)に土壌診断を行い、診断結果を診断後5日以内にJAに報告する。

### 5 診断結果に対する対策

JAは土壌診断結果に基づき、農家組合員に対し診断結果報告と施肥指導を行う。

JA全農とちぎはJAと協議の上、JAが農家組合員に対し行う診断結果報告に基づく施肥指導の支援を行う。

### 6 その他

分析結果については県内の施肥基準作成の参考に活用させて頂くこともありますので、ご了承ください。

### 7 診断料 略

### 8 診断料請求 略